

## 老齡女性の衣服に対する意識調査(第2報)

東 ミカ, 中尾 時枝, 林 泰子

(武庫川女子大学家政学部被服学科)

### Investigation on Aged-womens Clothes-consciousness. (part II)

Mika Azuma, Tokie Nakao, Yasuko Hayashi

*Department of Textiles and Clothing Sciences, Faculty of Home Economics,*

*Mukogawa Womens University, Nishinomiya 663, Japan*

The modern clothes-life for aged-women is based considerably on ready-made clothes. In this paper we considered which types of clothes aged-women desired from the view points of form and beauty such as functionality, design, colors and patterns, and from social-psychological view points.

It was found that because aged-women had troubles in their movement and lowerings of their eyesight in common, they desired following clothes more strongly

- 1) clothes giving impression of young mind and clean sense to age as beautifully as possible.
- 2) more mobile and more functional clothes in the aspects of size, colors, materials and design.

### 緒 言

現在、我が国では急速に高齢化が進みつつあり、高齢者問題については様々な観点から論議されているが、実際には立ち遅れが目立ち、快適な生活環境が整えられているとは言えない面がある。<sup>1,2,3)</sup> 衣生活においても、高齢者向けの衣服が十分に整えられているとは言えず、60歳以上の高齢者に対しては、体型の変化が多様なためもあり、規格も定められていないのが実状である。<sup>4,5)</sup> このことは、高齢者層の体型に関するデータの収集が難しく十分な基礎資料もきわめて少なく、その解析も不十分であることによる。アパレル業界も高齢者をターゲットとした既製服の生産はサイズや色、柄、デザインなどの点からみて、現状は量、質共に限られている。それに近年、高齢者達もオーダーする人や自分で仕立てる人は少なくなり、既製服への依存度は上昇しているが、高齢者の様々な体型の変化に対応できる既製服はまだ充分ではない。<sup>6~12)</sup>

前報では、自然な老化の現象を身体計測と写真撮影により、体型変移の様相を報告した。<sup>13)</sup> 本報では、高齢者が被服に求めている「着やすさ」や、「着心地のよい被服とは何か」を知る目的で、高齢女性の日常生活の中での動作と健康状態との関連や、衣服に対する意識調査を行い、調査時期の異なるデータ間の比較より、どの様な点に共通性、あるいは特殊性が見られるかを検討した。

### 方 法

調査の対象は前報の老寿サナトリウムでの対象者に加えて、一般の健康な60歳以上の女性118名についても回答を得た。調査時期は1988年7月～8月と1988年9月～10月、更に1991年7月～8月にかけての3回である。得られた結果を集計するにあたり、生活状況に、それぞれ多少違いのある被験者であるため、第一回目の39名をA群、第二回目の63名をB群、第三回目の55名をC群とした(Table 1)。データの解析は前回同様、

Table 1. Age-distributions of aged-women for investigation of researching person

	対 象	年齢(歳)	人数(人)	%
A 群	老寿サナトリウム	60~75	9	23.0
		76~90	30	77.0
B 群	一般被験者	60~75	8	12.7
		76~91	55	87.3
C 群	大野記念病院	60~75	27	49.1
		76~94	28	50.9
合 計			157	

大阪大学計算機センターの大型コンピュータにて、SPSSXのプログラムを使用した。

調査の内容は、高齢女性が日常生活の中で体験する基本的な動作の難易度や健康状態との関連、服装に対する着心地、色、柄、デザインの嗜好などの要求条件など計63項目で、美的、形態的な面からと、社会心理学的側面から考察した。

### 結果および考察

まず、アンケート調査の対象とした被験者の基本属性は、AB群は76歳以上の割合が約80%であるのに対し、C群では50.9%となりやや若い集団である。

次に、最近の健康状態について自意識を調べたが、3群共80%前後の人が「普通」又は「元気である」と答えており、高齢者自身としてはほぼ良好と考えている。しかし健康状態の悪い箇所を医科別に見ると3群共内科、外科系が35.1%、22%と多く、これは高齢になると高血圧や糖尿病、その他内臓に欠陥が現れ、さらに姿勢が悪くなり腰痛や膝、脚などの痛みを感じている人が多いことがうかがえる。また、その他にあげられた病名では肩こり、側湾症、めまいなど個人により多様な身体的欠陥がみられた。

次に、日常動作における身体の支障状況と、既製衣服の着用不快感を4段階評価で質問した。結果をグラフで示すと、まず日常動作では、Fig.1のように全体的に右寄りに位置しており、今回の調査項目については、特に日常生活に支障はないが、階段の上がり降りや裁縫の際にやや眼がよく見えないと感じる時があると述べている。そこで健康状態と日常動作における設問間で、 $X^2$ 検定を行った結果を、Table 2に示す。B群の方は健康状態と日常動作の間に危険率2.5%で有意差がみられた。これはC群の方が若い集団なので、ややB群が体力的に劣っていると考えられるため、健康状態の良い悪いに日常動作の支障が影響されやすいのであろう。また、A群については他の二群よりもこれらに有意差が見られない。A群は、健康状態に難点がある集団にもかかわらず、健康状態が良いと答えた割合がややを含め51.3%と他の二群よりも多く、これは、日常動作に支障があ

Table 2. The comparison of daily movement among three groups

項 目	A 群	B 群	C 群
健康状態・寝ていて起き上がる時		○	
健康状態・起きていて立ったり座ったりする時		○	
健康状態・普通に歩く時	○	○	○
健康状態・階段を上がる時		○	○
健康状態・階段を下りる時		○	○
健康状態・腰を伸ばすのがつらい			
健康状態・手を上げるのがつらい			
手仕事の際の眼の障害・楽しみ	○		○

○・・・危険率2.5%で有意差あり

高齢女性の衣服に対する意識調査（第2報）

る状態でもそれを自然のことと受けとめていると考えられ、健康状態と日常動作の難易度を余り結び付けて考えていないためであろうと推測される (Fig. 2).

また平均値の差の検定では、和服の着脱に AB 間 AC 間に危険率 5% で有意差がみられた (Table 3).

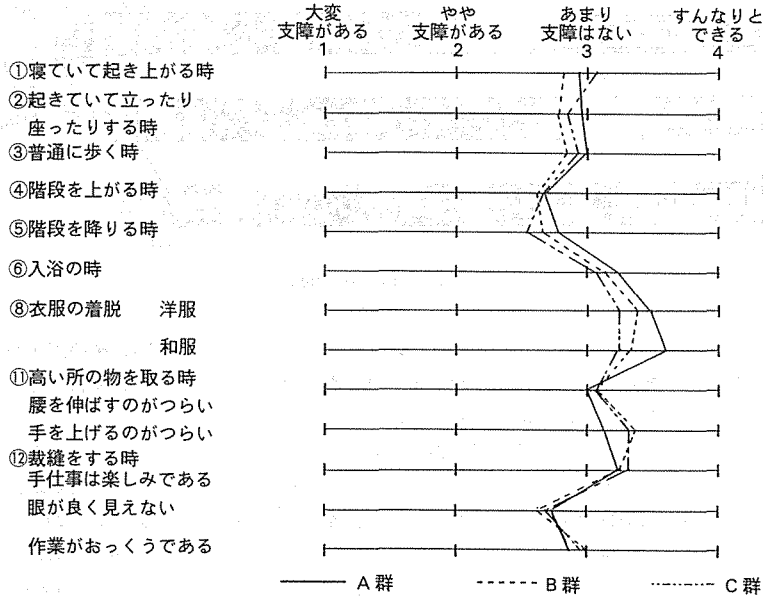


Fig. 1. The profile of the trouble on the body in daily movement

Table 3. The trouble on the body in daily movement

質問事項	平均値			標準偏差			変動係数 (%)			平均値の差の検定		
	A群	B群	C群	A群	B群	C群	A群	B群	C群	AB	BC	AC
① 寝ていて起き上がる時	2.92	2.85	3.07	1.010	0.759	0.951	34.59	27.89	30.98			
② 起きていて立ったり座ったりする時	2.97	2.84	2.87	1.013	0.781	1.001	34.11	27.50	34.89			
③ 普通に歩く時	3.00	2.89	2.91	0.889	0.805	1.041	29.63	27.85	35.77			
④ 階段を上がる時	2.73	2.61	2.67	1.056	0.815	1.000	38.68	31.23	37.45			
⑤ 階段を降りる時	2.84	2.64	2.59	1.053	0.878	0.991	37.08	33.26	38.26			
⑥ 入浴の時	3.21	3.14	3.13	0.993	0.713	0.966	30.93	22.71	30.86			
⑦ 排便の時 (洋式)	3.31	3.27	—	0.916	0.565	—	27.67	17.28	—			
〃 (和式)	3.27	2.94	—	0.814	0.864	—	24.89	29.39	—			
⑧ 衣服の着脱 (洋服)	3.45	3.36	3.19	0.782	0.630	0.957	22.67	18.75	30.00			
〃 (和服)	3.66	3.25	3.22	0.543	0.661	0.916	14.84	20.34	28.45	*		*
⑨ 食事の準備	3.64	3.27	—	0.881	0.708	—	24.20	21.65	—			
⑩ 掃除・洗濯	3.52	3.26	—	0.713	0.656	—	20.26	20.12	—			
⑪ 腰を伸ばすのがつらい	3.03	3.10	3.06	1.181	0.951	1.079	38.98	30.68	35.26			
手を上げるのがつらい	3.10	3.32	3.30	1.172	0.832	0.983	37.81	25.06	29.79			
⑫ 手仕事は楽しみである	3.22	3.25	3.31	1.053	0.896	1.007	32.70	27.57	30.42			
眼が良く見えない	2.71	2.62	2.64	1.022	0.944	0.977	37.71	36.03	37.01			
作業がおっくうである	2.93	3.00	2.98	1.081	0.971	1.105	36.89	32.37	37.08			

\* 危険率 5% で有意差あり、 — は設問を省いた項目

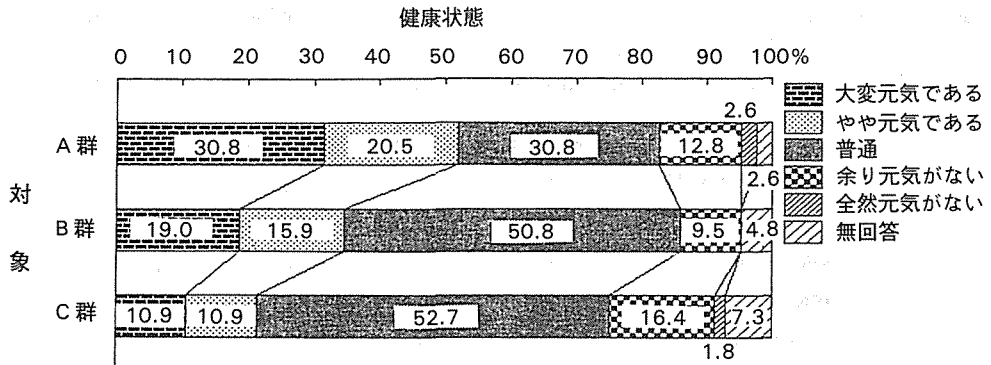


Fig. 2. State of health

更に、Table 4～6は、日常の動作についての17項目を、因子分析法により回転後の因子負荷量、固有値、累積寄与率を示したものである。まず第1因子をみるとAC群では歩行、立つ座る、階段の上がり降りなど下半身の運動に高い負荷量を示している。高齢になっても、背筋がびんと伸びている人や若くても早くから前屈しかかっている人がいるが、これは体質や生活環境、習慣などからくるものであろう。しかし、何十年間も身体を支える足腰は誰にでも多少は何らかの形で変化が出てくることは自然であらう。B群では掃除、洗濯、食事の準備、衣服の着脱などが高い因子負荷量を示しており、これは全身運動の因子と思われる。第2因子はAC群では裁縫をする時の要因に高い負荷量を示しているため細かい手仕事の因子といえる。眼の疲れは神経から身体全体に大きく影響されるといえよう。B群では階段の上がり降り、歩行時などが高く下半身の運動の因子といえる。第3因子はA群では腰を伸ばしたり、手を上げるのがつらいに高い因子負荷量を示しているため上半身の運動の因子といえる。B群では裁縫時の諸要因に高い因子負荷量を示しているため細かい手作業の因子といえる。C群では入浴と衣服の着脱であり被服行動の要因といえる。第4因子はA群では和服の着脱と食事の準備が高く被服行動の因子といえる。BC群では腰を伸ばしたり、手を上げるのがつらいが高く上半身の運動に高い因子負荷量を示している。

Table 4. The factor value of A group ( $> \pm 0.6$ )

項目	第1因子 全身運動	第2因子 細かい手仕事	第3因子 上半身の運動	第4因子 被服行動
普通に歩く時	0.92430	-0.09739	0.14863	0.04442
立ったり座ったりする	0.85880	-0.08574	0.22474	0.08848
寝ていて起き上がる時	0.82205	-0.24770	0.06020	0.06919
階段を上がる時	0.81344	0.05919	0.16793	0.05572
階段を降りる時	0.66009	0.33679	0.07024	0.04199
手仕事は楽しみである	-0.17588	0.87221	0.05377	0.07544
眼が良く見えない	-0.11524	0.82078	0.15540	0.10356
作業がおっくうである	-0.17223	0.73074	0.07840	0.01755
腰を伸ばすのがつらい	0.22630	0.17007	0.88168	-0.13763
手を上げるのがつらい	0.26428	0.01952	0.80027	-0.04878
衣服の着脱(和服)	0.04631	0.24478	0.00054	0.71446
食事の準備	-0.04094	0.09134	-0.23635	0.63466
固有値	5.52254	3.39496	2.28987	1.28417
累積寄与率(%)	29.1	46.9	59.0	65.7

高齢女性の衣服に対する意識調査（第2報）

Table 5. The factor value of B group ( $> \pm 0.6$ )

項目	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
	全身運動	下半身の運動	細かい仕事	上半身の運動
掃除・洗濯	0.95733	-0.07383	-0.08628	0.01355
食事の準備	0.95189	-0.10185	-0.15903	0.00506
衣服の着脱(洋服)	0.94768	0.01067	-0.03836	0.03635
〃 (和服)	0.91436	-0.03808	0.00804	-0.10667
排便の時(洋式)	0.86040	0.10504	0.05308	0.07190
〃 (和式)	0.83457	0.08177	-0.00910	-0.06719
入浴の時	0.83106	0.15162	0.17861	0.16768
階段を降りる時	0.03252	0.95250	0.00787	0.04009
普通に歩く時	-0.03267	0.85421	-0.05126	0.11619
階段を上がる時	0.16836	0.79404	0.08901	0.12458
寝ていて起き上がる時	-0.12527	0.70369	-0.11672	0.20615
立ったり座ったりする	0.01067	0.70311	0.11416	0.02190
手仕事は楽しみである	-0.07066	-0.01565	0.91801	0.10725
眼がよく見えない	0.04927	-0.04205	0.85647	0.07347
作業がおっくうである	0.04418	0.00450	0.70668	0.24535
腰を伸ばすのがつらい	0.00016	0.18361	0.16868	0.92231
手を上げるのがつらい	0.05174	0.24580	0.21474	0.91683
固有値	6.06927	4.22722	2.75526	1.37484
累積寄与率(%)	31.9	54.2	68.7	75.9

Table 6. The factor value of C group ( $> \pm 0.6$ )

項目	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
	全身運動	細かい仕事	被服行動	上半身の運動
階段を降りる時	0.90609	0.28615	0.11368	0.21525
階段を上がる時	0.83651	0.10638	0.15815	0.15645
普通に歩く時	0.72943	0.15394	0.24924	0.24292
立ったり座ったりする	0.69456	0.02146	0.34858	0.16492
寝ていて起き上がる時	0.58100	-0.05762	0.24350	0.28375
手仕事は楽しみである	-0.02431	0.79952	0.18236	0.14652
眼が良く見えない	0.17714	0.75554	0.07687	0.05761
作業がおっくうである	0.10983	0.74616	0.03869	0.10598
入浴の時	0.29744	-0.24703	0.86064	0.23320
衣服の着脱(洋服)	0.42458	0.24703	0.67855	-0.10740
衣服の着脱(和服)	0.14836	0.23325	0.62480	0.23834
手を上げるのがつらい	0.29270	0.22683	0.20378	0.78955
腰を伸ばすのがつらい	0.33436	0.13786	0.12001	0.74731
固有値	5.82775	2.00763	1.25276	1.08557
累積寄与率(%)	44.8	60.3	69.9	78.3

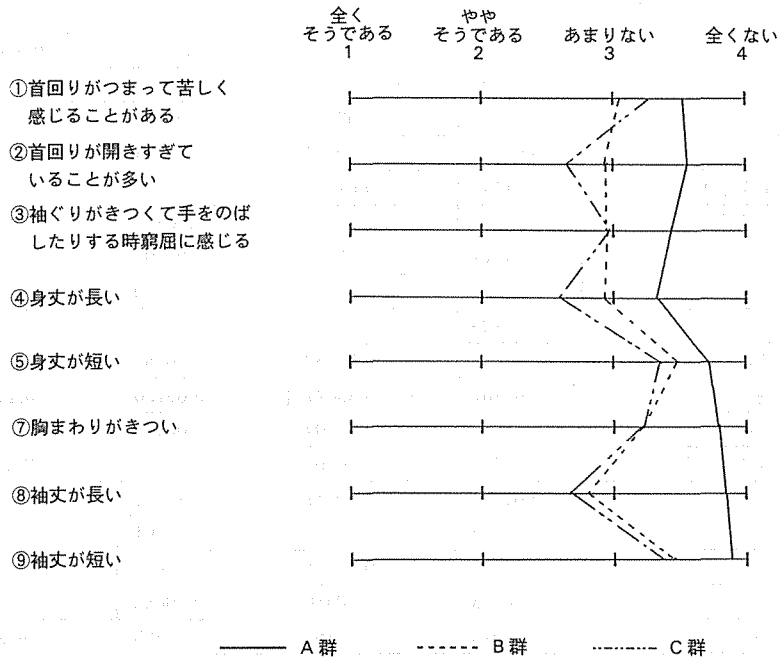


Fig. 3. The profile of the discomfort degree in wearing ready-made clothes.

Table 7. The discomfort degree in wearing ready-made clothes

質問事項	平均値			標準偏差			変動係数 (%)			平均値の差の検定		
	A群	B群	C群	A群	B群	C群	A群	B群	C群	AB	BC	AC
①首まわりがつまって苦しく感じる	3.50	3.07	3.22	0.923	0.899	0.802	26.37	26.28	24.91	*		
②首まわりが開きすぎている事が多い	3.55	2.98	2.76	0.695	0.900	0.914	19.57	30.20	33.12	**		**
③袖ぐりがきつくて手を伸ばすと窮屈	3.44	2.95	2.98	1.021	0.990	0.863	29.68	33.56	28.96	*		*
④身丈が長い	3.28	2.91	2.46	1.111	0.942	1.134	33.87	32.37	46.10		*	**
⑤身丈が短い	3.74	3.42	3.36	0.567	0.629	0.729	15.16	18.39	21.70	*		*
⑥後ろ丈が短すぎる	3.65	3.37	—	0.774	0.742	—	21.21	22.02	—			
⑦胸まわりがきつい	3.69	3.22	3.22	0.710	0.839	0.831	19.24	26.06	25.81	**		**
⑧袖丈が長い	3.61	2.71	2.62	0.803	1.037	1.053	22.24	38.27	40.19	**		**
⑨袖丈が短い	3.80	3.43	3.36	0.584	0.605	0.643	15.37	17.64	19.14	*		**
⑩ゴム部分がきつい	3.62	3.00	—	0.888	0.941	—	24.53	31.36	—	**		

\*\*危険率1%で有意差あり、\*危険率5%で有意差あり、— は設問を省いた項目

次に、既製衣服についての着用不快感では、三群共に余り不満はもっていないが、BC群で身丈や袖が長すぎることにやや不満をもっている (Fig. 3)。これは体型の変化により部分的に肉がつき、それに合わせて衣服を選ぶとプロポーション上での丈が長すぎるためといえる。しかし、現状はもっと多くの不満が挙げられると予測されたが、A群は入院生活を送っている人が多いため、日頃パジャマのような楽な衣服で過ごしていることもあり、衣服に対する不快感は比較的少ない。不快と感じる部位は、ゆとりの少ない首ぐり、袖ぐりと丈とまわり寸法のバランスをあげており、色、柄、デザインよりも機能面に関することを強く求めている。そして上下別サイズのものが自由に組み合わせでき、ほどよいゆとりのあるものを求めていることがうかがえる。また、これらの項目の着用不快感の平均値の差の検定結果は Table 7 に示すとおりである。

## 高齢女性の衣服に対する意識調査（第2報）

また、その他に入手方法では現在手持ちの衣服について、三群共自分で購入したという回答が多かった。年齢が増すにつれておしゃれに対する関心が薄くなるのではと思っていたが、全く逆であった。また、老年になると若い人とは体型が著しく異なるため、試着することを希望し、そうすることにより、自分の体型や好みにあった衣服を求めようとしていることがうかがえる。C群の衣服の入手状態は70.9%が、既製服を選んでおり、全体的に余り不満はもっていないようだが、サイズの面よりも、ややデザインの面に不満を持っていることがみられた。これはサイズなら直して着用できるが、デザインはなかなか変えることができないうえ、高齢になるとデザインの選択が困難になるためともいえる。

次に、衣服を購入する際の特設コーナーの希望の有無は、54.9%があってほしいと答えており、その理由は、60.8%がデザインや柄が若すぎる、48.6%が一般の売場には身体に合うサイズがない、48.0%がサイズの面で合わない部位があると述べており、サイズについてはバランスにばらつきの多い高齢者の個々の体型に適合していないことを表しており、このことが、まさに規格設定の改善が必要とされる点であろう。

次に、衣服のデザインや機能性の面で被験者達の希望する条件としては、先ず、衿は前にゆったりと開いたジョールカラー、袖はややゆったりとしたドルマンスリーブ、ラグランスリーブなど、ウエスト部分は自分のサイズに合わせてきちんと形を整えられるベルトスタイルが好まれている。またデザインについては、B群よりもC群の方が若々しいデザインを望んでおり、また高齢者向けの衣服コーナーについての希望が20%近く高いことから、C群の方が衣服に対する関心度が高く、様々な色、柄、デザインを要求していることがうかがえる。

## ま と め

前報では、高齢女性の体型の実測データから、加齢による体型変化の様相を報告したが、本報では、それらの特徴をふまえた上で、高齢者特有の動作の不自由さ、着脱のしやすさ、身体保護の条件等、加味しながらより着心地のよい老人衣服の設計を進める上で、現在の高、高齢女性が衣生活の面でどのような点に苦慮し、困惑し、どのようなことを希望しているかについて、質問紙調査法により調査した結果、以下のことが明らかとなった。

即ち、A群では、いろいろな体型の人のためにデザイン、サイズを増やしてほしい、B群では、身体に対してゆとりがあり、動きやすいもの、着脱しやすいもの、それに加えて、清潔感のあるものが求められており、C群では衣服の部分的にサイズのあわない所があるため、高齢者の体型のバランスを考慮した既製服を希望する等の意見をあげている。全体の傾向としては、①健康状態では、視力の衰えが最も多くみられたが、日常生活では年齢相応に概ね支障なく生活しているようにみられる。②既製衣服は自ら向いて購入する人がかなり多く、このことは体型や好み合った衣服を納得して求めようとする姿勢がうかがえる。③色、柄は季節感と若さのあるもので、特に機能性の高いデザインの嗜好が顕著である。④豊かな経済社会において美しく老いたいと希求する条件として、a.サイズ、色柄、材質、デザインすべてにおいて機能性の高いゆとりのあるイメージのもの b. 季節感があり着脱しやすいもの c. 明るく美しく、心の若さを感じさせるもの d. ポケットを有効に配し、外出時にも身軽に着られるもの、などの条件を充たすものを求めていることがわかった。

## 謝 辞

本研究にあたり、医療法人老寿サナトリウム、大野記念病院の皆様をはじめ、アンケート調査に多大なご協力を賜りましたことを深謝いたします。並びに、調査実施、資料整理をされた、小山香奈子元助手、ゼミ学生(吉田美穂、村上まさみ、梶島理絵)姉に紙上を借りて、御礼申し上げます。

## 参考文献

- 1) 奥村美代子, 家政学雑誌, 34, 581-585(1983).
- 2) 清野きみ, 家政学雑誌, 36, 885-897(1985).
- 3) 江澤郁子, 家政学雑誌, 36, 898-902(1985).
- 4) JIS 衣料サイズ推進協議会, (1980).
- 5) 兵庫県立生活科学研究所, (1986).

(東・中尾・林泰)

- 6) 山本昭子, 日本家政学雑誌, 35, 586-592(1984).
- 7) 林 泰子, 福嶋由香理, 志茂山尚江, 武庫川女子大学紀要(被服編), 33, 123-136(1985).
- 8) 山本昭子, 衣生活研究, 4, 32-36(1986).
- 9) 山本昭子, 衣生活研究, 5, 71-75(1986).
- 10) 山本昭子, 衣生活研究, 6, 26-30(1986).
- 11) 辻 啓子, 伊藤きよ子, 日本家政学会誌, 38, 69-75(1987).
- 12) 大橋正男, 繊維と工業, 46, 102-107(1990).
- 13) 林 泰子, 中尾時枝, 東 ミカ, 武庫川女子大学紀要(被服編), 38, 47-54(1990).